

【研究概要】

極早期・前駆期パーキンソン病を診断する評価法を確立するための、歩行障害、手足のふるえ、手足の動かしにくさなどパーキンソン症状を疑う 80 例を対象とした、介入及び侵襲を伴わない、聴取により得た情報と非侵襲検査を用いた横断研究である。便秘の有無、嗅覚障害の有無、レム睡眠行動異常の有無、中脳黒質面積の減少、青斑核の不明瞭、嗅球体積の減少から、パーキンソン病を早期診断できるかを検討する。